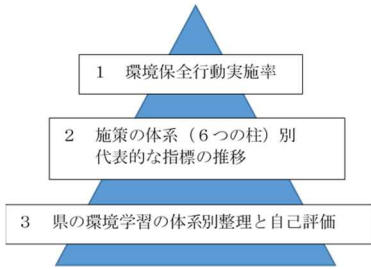


第四次滋賀県環境学習推進計画の進行管理の考え方の整理について

1 現状

(1) 三層構造の進行管理

「第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況（令和元年度）について」のとおり



(2) 現行の進行管理方法に対する主な意見（令和2年度滋賀県環境審議会環境企画部会（第2回））

- ①前半でギアモデルの説明、後半で実施状況というかたちで、どの事業がギアモデルのどの部分に該当するか分かるように整理をすると、ギアモデルがもっと生きたものになるのではないかと。
- ②事業の対象者として、未就学児から成人までと記載してあるが、成人の分類は様々であり、事業者を対象とした環境学習というものは拾えないのか。
- ③事業数より、各事業の参加者(数)や参加者へのアンケートで、考えることや行動することにつながった人が何%（何人）増えたかという結果が分かると、実際の効果がもっと測れる。

2 第四次滋賀県環境学習推進計画の特徴から進行管理において工夫したい点

(1) SDGs との関連性について

本計画の性格について、P3において「環境学習による人材の育成によって持続可能な社会づくりをめざす計画で、SDGs の主に、質の高い教育に関するゴール4のターゲット 4.7「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得」に貢献するとともに、すべての目標の達成に資するもの」としている。

→県環境学習関連事業と SDGs との関連性を把握する。 **新**

(2) 重点的に取り組む課題について

第四次計画では重点的な取組に「多面的な機能をもつ森林づくり」を新たに追加し、課題同士のつながりを意識して、環境学習の推進に取り組むとしている。

また、重点的な取組に関連する事業については、別途取組ごとに事業の分類・整理をし、取組ごとの評価を行うこととしている（第三次計画から変更なし）。

→課題に「多面的な機能をもつ森林づくり」を追加する。

→現行の進行管理では重点的取組課題ごとの事業数を集計していたが、重点取組課題についての状況把握を強化するため、課題ごとに代表事業を決め、関連指標の経年変化をみていく。 **拡充**

(3) 県内外の優良事例の収集・情報提供について

計画（P30）では、県内外の優良事例の収集に努め、情報共有を図ることとしている。

→県事業だけではなく、県内外の自治体や民間団体等が行う事例も含めて情報収集し、紹介する。 **拡充**

3 第四次滋賀県環境学習推進計画の進行管理の方法についての変更点

(1) 実施状況報告資料の構成について

「ギアモデルのステップ別整理」→「3 県の環境学習の体系別整理と自己評価」→「2 施策の体系（6つの柱）別 代表的な指標の推移」→「SDG sとの関連性」→「1 環境保全行動実施率」

(2) 対象者別事業数について

事業者を対象とした事業を抽出する照会方法を検討する。

(3) 施策の体系（6つの柱）別参考事例について

柱ごとに代表事業を決め、当該事業の関連指標の経年変化をみていく。

各代表事業および関連指標（案）は下記のとおり。

施策の体系 (6つの柱)	代表事業(案)	関連指標(案)	主な対象
(1) 人材育成 および活用	①しが環境教育研究協議会（幼 小中教育課） ②滋賀県地球温暖化防止活動推 進員の育成（温暖化対策課）	①環境教育担当教員の参加者数 ②研修会回数、受講者数	①成人（教 員） ②成人（滋 賀県地球温 暖化防止活 動推進員）
(2) 環境学習 プログラムの 整備および活 用	幼児自然体験型環境学習（環境 政策課）	・プログラム作成数 ・参加者満足度 ・参加園数・人数	幼児・成人 （保育者）
(3) 場や機会 づくり	①びわ湖フローティングスкуль 「うみのこ」（びわ湖フローテ ィングスкуль） および ②エコ・スкуль支援事業（環境 政策課）	①児童意識調査「フローティン グスкульの学習を終えて、びわ湖 学習のテーマについての自分の考 えを持ち、ほかの人に伝えること ができましたか」の達成率 ②認定校数	小学生 小・中・高
(4) 情報の提 供	①環境学習センター運営事業 （環境学習センター） ②学習情報提供システム整備事 業（生涯学習課） ③「地域の力を学校へ」推進事業 （生涯学習課）	①エコロシーが「環境学習プロ グラム」の登録数 ①相談件数 ②におねっと「地域で学ぼう出前 講座（環境分野）」の登録数 ③「学校支援メニュー（自然・環境） の登録数	①成人 ②成人 ③成人

(5) 連携・協力のしくみづくり	琵琶湖サポーターズ・ネットワーク (琵琶湖保全再生課)	登録団体数	区分設定なし (組織・団体)
(6) 取組への機運を高める普及啓発	①「びわ湖の日」活動推進事業 (環境政策課) および	①出前講座の開催数・参加者数	①全般
	②「琵琶湖は今」(びわ湖まちかどむらかど環境塾事業) (琵琶湖保全再生課)	②出前講座の開催数・参加者数	②全般

(4) 重点的取組課題の関連指標について

計画 (P30) では、重点的な取組に関する事業については、別途取組ごとに事業の分類・整理をおこない、取組ごとの評価を行うとされている。

については、下記のとおり、重点的に取り組む課題ごとに代表事業を決め、関連指標の経年変化をみていく。

課題	代表事業 (案)	関連指標 (案)
(1) 暮らしと琵琶湖のつながり再生	たんぼのこ体験事業 (食のブランド推進課)	・実施校数
(2) 脱炭素社会づくり	低炭素社会づくり学習支援事業 (温暖化対策課)	・出前講座開催数 ・参加者数
(3) 生物多様性の保全	ラムサールびわっこ大使 (自然環境保全課)	・育成人数
(4) 循環型社会づくり	ごみゼロしが推進事業 (循環社会推進課)	・食品ロス削減の取組を実践している事業者の割合 (「三方よしフードエコ推奨店」の登録店舗数) ・食品ロス削減の取組を実践している消費者の割合
(5) 多面的な機能をもつ森林づくり	森林環境学習「やまのこ」 (森林政策課)	・森林に対する理解や関心の向上が認められる児童の割合(%)

(5) 複数の重点分野に位置づけられた事業について、課題同士のつながりを意識した工夫点について照会する。

(6) SDGs との関連について

- ・ 県環境学習関連事業において、SDGs の 17 のゴールに関連づけられている事業を把握する。
- ・ SDG 4（ターゲット 4.7）への貢献に関し、環境保全行動実施率のほか、関連する指標の抽出について検討する。

(7) 優良事例について

- ① 県内事例：県環境学習関連事業や各市町等実施の関連事業において、環境学習の推進の参考になるような工夫や注目されている事例を紹介する。
- ② 県外事例：きんき環境館等に情報提供を依頼し、上記と同様の事例を紹介する。